





平中平

山

じーてんちくに國ありあま
くふふさう中なるその國王の
ゆるびてせんふいさうさう中さう
うらいつくたさう事うはりは
時うまうさうたさうれう事
あうさうさうやう事と一ト
たをさうさうさうとたさう物
さうさうさうたさうたりさう
事さう中さうゆさうありさう
さうさう事さうありさう物
さうさうさうゆさうさうありさう
さうさうさうゆさうさうありさう
さうさうさうゆさうさうありさう
さうさうさうゆさうさうありさう



ありしにひりてきく人いふに
 けりちるふりやうりけり大甲の
 所能のなわいりし羽たのれを
 せんきつつかりあそつれきり
 又こねのつりにきり秘のつり
 ちりしつりのさちやびつり
 たり百八十人いふのあそよ
 せんを百廿七やうりぬれたる
 いらぬれ一百人のさちや大
 三千人の女房たちを秘り
 けりしきりありぬれ

ゆいし

ありしにひり

ありしにひり

とれつゝ海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
たふすのちのちのちのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの

あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの

あつゝと海をたふすのちのちの

あつゝと海をたふすのちのちの

あつゝと海をたふすのちのちの

あつゝと海をたふすのちのちの

あつゝと海をたふすのちのちの

いかにしていかにいかにいかに
いかにいかにいかにいかに

いかにいかに

いかに

いかにいかに

いかに

いかに

いかにいかに

いかに

いかにいかに

いかに

いかにいかに

いかに

いかに



そのみから三秘人よきしりく
くふくへ大王はけいをゆへ
しくむらむをけるは我非ま
可の時こそまはしりうみん
るみら三年よびくられたら
るまはんもつねまは
あひらん事もかいろく
とくは法をあらはせまは
ゆへむらむらふはれくを
ゆるしうあたまうい事
はいつくはれしひりまは
まはしりまはしりまはしり
中へまはしりまはしり
ゆへ事ありしつとむかこれ

大王はけいしりまはしり
りうはひりまはしりまはしり
こくはけいもまはしり大
園十八万のまはしり
あはしりまはしりまはしり
とくはしりまはしり
くはしり大王はけい
いりまはしりまはしり
らりまはしりまはしり
とくはまはしりまはしり
ゆへ十三はまはしり
とくはまはしりまはしり
りりまはしりまはしり
かたはらちりまはしり





まわへびて我一人まうる命
たうら世じとの命(たうら)が
わがわなられあうをたしませ
多ししを命(たうら)の命(たうら)に
うらうら命(たうら)の命(たうら)に
まわへびて我一人まうる命
たうら世じとの命(たうら)が
わがわなられあうをたしませ
多ししを命(たうら)の命(たうら)に
うらうら命(たうら)の命(たうら)に
まわへびて我一人まうる命
たうら世じとの命(たうら)が
わがわなられあうをたしませ
多ししを命(たうら)の命(たうら)に
うらうら命(たうら)の命(たうら)に

はらうらうとわがわ命(たうら)の命(たうら)
わがわ命(たうら)の命(たうら)に
うらうら命(たうら)の命(たうら)に
まわへびて我一人まうる命
たうら世じとの命(たうら)が
わがわなられあうをたしませ
多ししを命(たうら)の命(たうら)に
うらうら命(たうら)の命(たうら)に
まわへびて我一人まうる命
たうら世じとの命(たうら)が
わがわなられあうをたしませ
多ししを命(たうら)の命(たうら)に
うらうら命(たうら)の命(たうら)に

あまわいを命(たうら)の命(たうら)に
うらうら命(たうら)の命(たうら)に
まわへびて我一人まうる命
たうら世じとの命(たうら)が
わがわなられあうをたしませ
多ししを命(たうら)の命(たうら)に
うらうら命(たうら)の命(たうら)に
まわへびて我一人まうる命
たうら世じとの命(たうら)が
わがわなられあうをたしませ
多ししを命(たうら)の命(たうら)に
うらうら命(たうら)の命(たうら)に



何あそびにあらはせたりま
 りともひりやう命をばさ
 りとらふひにけりゆはた
 ひりやひたりとまはひて
 いまこころ月とるめりま
 日下美人と

二
 といふ

あらぬ

い

か

袖

い

か

ゆくとたりいひましくねら
てれまら結んてねあかま
とくおほれはとものく
みうねし結ひくこしむらに
らひひてまやこくしむら
くろ屋ぐく日敷をやうま
まやこく入あひるたし
ゆしはあまらむらむら水あ
おころとねらうくこら
書くすもこらむら大げあり
とくはこびたぐあくく
くすたかかきうたりた
一人やうまてたりあ
まらむら物中むらもの

くまらとくまら一人あひあ
このうへにむらこく
うてゆきうまむらむら
たりうまむらむらむら
あひあむらむらむら
まとのむらて大まむら
まらたりうまむらむら
これいふむらむら大王
つむらむらむらむら
まらむらむらむらむら
あひあ一人まらむら
たりまらむらむらむら
せいむらむらむらむら
くまらむらむらむら

しつらぬりせたけまゝいぬいぬ
換へて多くとるやてたりて
右をいづるたぐまうんとく大玉の
たりぬりたるこたていぬの
くらぬひるくくらへ入たきう
まじけの君よそまへんとせぬ
てんごや大玉をこゝろくまう
んごまういふこゝろぬは
されどもお子の婚むの事
つとむりかゝるまう大玉の婚む
おゆかゝるまうの事いふ
まうもぬんちかゝるこゝろた
婚むの事いふかゝるこゝろいぬ
中をせまひなり



丁少平

畫

110X
278
5

Handwritten characters in black ink, possibly a title or signature, located in the center of the cover.